

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3270101581
法人名	株式会社 やつかの郷
事業所名	グループホーム やつかの郷
所在地 (電話番号)	鳥根県松江市八束町二子1025番地9 (電話)0852-76-3522

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル207号		
訪問調査日	平成20年3月27日	評価確定日	平成20年4月30日

【情報提供票より】(20年 3月 7日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	12 人, 非常勤 5人, 常勤換算 13,7

(2)建物概要

建物形態	単 独	新 築
建物構造	木 造 造 り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(175000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	220 円	昼食	560 円
	夕食	560 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(3月 17日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	吉岡医院 小須賀歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

八束町と言うのどかな郷に建てられたグループホームである。朝とれたての魚やホームの中庭で収穫された野菜を利用者に提供し、食べる楽しみを大切にしている。中庭の野菜は経営者が率先して手入れし、利用者も草取りを手伝う等、収穫の喜びを共に喜びを味わっている。開設二年目と言うこともあり、管理者始め職員一丸となって、ケアの見直し、課題分析・改善に日々努力を惜しまない姿が伺えました。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で改善点となっていた、地域や市町村との連携については現在進行形であり、取り組みに努めている。人材育成やホームの運営関係に関しては施設長始め職員で話し合い、システム化に向け努力されています。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価に関しては、話し合いを行い、管理者がまとめられた。ホームは2ユニットだが、職員はローテーションで利用者のケアにあたって居るため、自己評価も一部となっていました。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進委員会は3回開催されている。ホームの状況や行事について報告され、地域住民や・利用者・家族、行政職員や地域包括職員の参加も確認できた。困難事例や相談等の問い合わせに出向いている。事業所の運営やサービスの課題等について取り組みの姿勢が伺えました。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム内での利用者の暮らしぶりや状況について、個別にお便り等を送付したり、面会時に職員から報告している。急な変化が生じた時は電話にて連絡・報告している。意見箱は事務所の前に設置され、家族の面会時に意見や苦情等何でも言ってもらえるように留意している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事のぼたん祭りに参加したり、敬老会では大正琴の演奏をして頂いたり、地元の中学生との交流も確認できた。ホームの季刊誌や広報を地域に配布したり、自治会の回覧等を利用し、ホームへの理解を深めて行く活動や認知症のケア方法・相談窓口の設置等、地元の方達との交流の場としてホームを開放する取り組みを希望します。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「穏やかで楽しい、尊厳のある生活を保障します。その人らしい当たり前の生活を保障します」というホームの理念を作り上げている。グループホーム内に掲示されており、常に意識するように工夫がされています。		前回の評価を受けて、ホームの理念の見直しがされ、利用者や家族にも解り易いように変更されていました。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々念頭に置き、理念の実践に向け取り組んでいます。		ミーティング等でさらに理念を掘り下げて職員全体で話し合い、ケアの質について意見の統一を図っていただきたいです。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事のぼたん祭りに参加したり、敬老会では大正琴の演奏をして頂いたり、地元の中学生との交流も確認できました。		ホームの季刊誌や広報を地域に配布したり、自治会の回覧等を利用し、地域へホームの理解を深めて行く活動や認知症へのケア方法・相談窓口の設置等、地元の方達との交流の場としてホームを開放する取り組みを希望します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行い、サービスの質の向上に努めており。前回の評価結果についても、ミーティングで報告し、具体的な改善に取り組んでいます。		職員全員で改善計画を作成し、改善に向けた具体的な検討や実践につなげる為の更なる取り組みに期待したいです。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は3回開催されている。ホームの状況や行事について報告され、地域住民や・利用者・家族、行政職員や地域包括職員の参加も確認できました。		運営推進会議は今後2ヶ月に1回程度の開催を目標とし、一般職員も参加して現場の声も発信できる場になることを望みます。テーマや内容によって関係者・参加者の構成を変える事も良いかもしれません。グループホームについてもっと理解して頂ける様に、啓発活動に期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難事例や相談等の問い合わせに出向いている。事業所の運営やサービスの課題等について取り組む姿勢が伺えました。	○	市町村担当者に事業所の考え方、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、運営やサービスの課題解決に向け、協働関係を継続していくことが望まれます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム内での利用者の暮らしぶりや状況について、個別にお便り等を送付したり、面会時に職員から報告しています。急な変化が生じた時は電話にて連絡・報告していました。		これから定期的にホーム便り等の発行が検討されていることから、是非実行していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は事務所の前に設置されており、家族の面会時に意見や苦情等何でも言ってもらえるように留意されています。		苦情相談窓口を管理者のみでなく、第三者委員の設置検討等再度検討を望みます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に対して職員の異動や退職のあいさつや新任職員の自己紹介等が行われたが、家族に対しては一部連絡が行き届いていなかったようです。		ホーム便りやホーム内での職員紹介のポスター等で紹介したり、家族会や運営推進委員会等でも紹介をされると良いのではなでしょうか。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも参加され、報告・閲覧もなされているが、職員全員の共有化には至っていない感じられた。今年は常勤・非常勤に関わらず、職員の研修計画を立て、法人内外に関係なく研修参加できる様に取り組む事が伺えました。		利用者や家族にとって、職員が頼りであり専門家である事から、理念の共有、ケアについての知識や技術の均一化に向け更なる努力に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修を一回行っているが、定期的に交流する機会やネットワークづくりに至っていません。	○	他施設の職員との相互交流を図り、研修や情報収集等されるとより良いと思われます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入所ではなく、事前説明を行ったり、ホームの見学等を行って、ホームの雰囲気に馴染まれ、納得のうえで入所してもらえるよう工夫されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の営みの中で職員が利用者に教えて頂けるような場面作りを多く持てるように配慮している。掃除、洗濯物のたたみや食事作り等、できる方には手伝っていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成段階のアセスメント、日々の行動や会話の中で本人の思いや意向を把握していました。また、家族の方からも意見等を聞くようにし、担当会議を開催し検討していました。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望をできるだけ尊重しつつ、家族の思いやニーズ、関係者の意見を反映させたアセスメントを作成していました。		これからの取り組みとして、センター方式の導入を検討中との事、課題分析の充実に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回モニタリングを行い、6ヶ月毎に計画の見直しを行っている。変化が生じた時は家族と電話で相談する等して必要に応じて計画を見直していました。		現状に即した介護計画の見直しは、介護計画の課題について、日々の支援状況等の記録確認が根拠となる事から、個人記録類の整備、手順、方法についても再検討の必要が感じられます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況・希望に応じて、通院や送迎等、必要な支援が柔軟に行われています。また、家族と一緒に宿泊出来る様に整備がされています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所の協力医の往診・受診も他に、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、訪問歯科の利用も支援されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	新しい管理者が着任してから、重度化や終末期のあり方について、本人・家族の意思・方針の確認に取り組み始めたところである。		重度化・終末期に向けた方針の共有について、今後、法人・管理者・職員と話し合いを重ね、ホームの方針が確立される事に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、プライバシーに配慮したさり気ない声かけをする様に努めていました。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れはあるが、本人のペースを配慮して柔軟に対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせて、職員がお願いをする等、一緒に食事の準備や片付けを行っていました。		職員も食事と一緒にされ、味わいながら共通の話題や食事時の支援等にも配慮を希望します。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日・時間等、本人の希望やタイミングに合わせて実施されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの能力に合わせて、洗濯たたみや食事の準備・盛り付け等の支援がされています。		ホーム中庭の畑の整備等についても、職員から声かけや促し、誘いながら、一緒にされる事を希望します。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候と相談しながら散歩や買い物に出かけるように努められています。		ホームの立地的な条件もあるが、日常的に散歩や買い物等、戸外に出かけられるように支援を期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関に鍵かけはされていない。安全面に配慮しながら、自由に出かけられる様に支援されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難・災害マニュアルが整備されており、避難訓練もされている。備蓄に関しては水が確保されていました。		近隣の住民との共同訓練の実施、食材の備蓄の準備等を検討されると良いでしょう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況に合った軟らかく、食べやすい食事が提供されている。とても美味しかった。水分摂取についても確保されており、記録されていました。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には特に飾り等は無かったが、木造の広い空間で、落ちついた雰囲気であり、居心地よさそうであった。ソファと椅子が置かれ中庭の畑をのぞめるようになっており、採光もほどよいです。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から使い慣れた品物が持ち込まれており、それぞれの雰囲気をもてるよう工夫されている。また居室が広めに取ってあるので、家族の希望により、宿泊も可能となっています。		